

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
青物町			
あおもものちよう			
S55.1			
藩政初期の寛永二年（一六二五）ころに低湿地帯を埋め立て開かれた町の一部で、初めは紙商が多く居住し紙町と呼ばれたが、のち八百屋商が多くなり、文化元年（一八〇四）に青物町と改称された。			
赤沼町	城東2丁目6番（城東児童公園内）	H1.2	安 有倫
あかぬまちよう			
S55.1			
藩政初期の寛永二年（一六二五）ころに低湿地帯を埋め立て開かれた武家屋敷地で、元禄三年（一六九〇）に赤沼町と名付けられた。赤沼と呼ばれる沼がこの地にあったといわれる。			
東町	東原1丁目2番1号地先	S62.1	関 南沖
あずまちよう			
S43.4			
常磐村東原と呼ばれたが、昭和八年水戸市に合併され、東原町となった。翌九年、市内町名改称で東原町の一部から東町が新設された。			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
荒神町			
城東2丁目1番41号地先 (常磐線前)	S62.1	山内 光雲	
あらがみちよう			
S55.1			
<p>藩政初期に開かれた武家屋敷地で、元禄三年(一六九〇)に荒神町と名付けられた。荒神橋近くにあった三宝荒神に由来する。後に三宝荒神は七軒町へ移され、町名だけが残った。</p>			
荒木町	泉町2丁目4番地先 (松下電気産業前 歩道)	S62.1	阪場香津決
あらきちよう			
S42.5			
<p>藩政初期に武家屋敷地となり、元禄二年(一六九〇)に荒木町と名付けられた。木町(後に金町と改称)と「あら町」(荒町又は新町と記し、後に泉町と改称)を結ぶ通りなので両町の頭字をとった。</p>			
一ノ町	城東1丁目6番地先(トッパンプロスプリント常磐線側歩道)	S62.1	関 南沖
いちのちよう			
S51.1			
<p>藩政初期に武家屋敷地とされ、もとは内川崎と呼ばれた地域の一部であり、元禄三年(一六九〇)に「一ノ町」と名付けられた。</p>			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
蘋町			
うきくさちよう	城東4丁目157番地2	S63.2	安 有倫
S45.4			
藩政初期の寛永二年（一六二五）ころに開かれた武家屋敷地で元禄三年（一六九〇）に「浮草町」と記された。一帯が低湿地であったことから、その植生に由来する町名だといわれている。			
浮町	城東1丁目15番55号地先	S62.1	斉藤 白水
うきまち			
S45.4			
中世の「宇喜郷」の地といわれ、藩政初期に武家屋敷地となり、元禄三年（一六九〇）浮町と名付けられた。明治になって細谷村に属したが、同二十二年市制施行のときに水戸市に編入された。			
梅小路	末広町1丁目1番地11号地先	S62.1	菊池 遊魚
うめのこうじ			
S43.4			
天保七年（一八三六）九代藩主徳川斉昭が、江戸住の家臣に国元帰住を命じて開いた新屋敷の一部である。各小路には樹木の名が付けられた。			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
裡一町目			
うらいっちょうめ	本町1丁目6番17号（市杵姫神社前）	S61.3	斉藤 白水
S51.1			
<p>藩政初期の寛永二年（一六二五）に低湿地帯を埋め立て開いた町で、本一町目の南裏にあたることから、裏（裡）一町目と名付けられた。</p>			
裡五町目	本町3丁目4番7号	S63.2	福地 養鷲
うらごちちょうめ			
S55.1			
裡三町目	本町2丁目10番7号（飯田内科医院前）	S62.1	吉澤 鐵石
うらさんちょうめ			
S51.5			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
裡信願寺町			
うらしんがんじちょう			
S42.5			
<p>藩政初期の正保二年（一六四五）から天和元年（一六八一）にかけ、この地にあった信願寺の裏通りにあたり、元禄三年（一六九〇）に裡信願寺町と名付けられた。</p>			
裡七町目	本町3丁目15番29号	S63.2	掛札 真直
うらななちようめ			
S55.1			
<p>藩政初期の寛永二年（一六二五）に低湿地帯を埋め立て開かれた町の一部で、本七町目の南裏にあたることから、裏（裡）七町目と名付けられた。</p>			
裡二町目	本町1丁目13番10号地先	S63.2	菊池 爽香
うらにちようめ			
S51.1			
<p>藩政初期の寛永二年（一六二五）に低湿地帯を埋め立て開かれた町の一部で、本二町目の南裏にあたることから、裏（裡）二町目と名付けられた。</p>			

旧町名	設置場所	設置時期	町名等揮毫者
ふりがな	標示柱設置付近の様子	旧町名標示柱	
町名廃止期日			
旧町名の説明文			
裡四町目			
うらよんちようめ			
S51.1			
藩政初期の寛永二年(一六二五)に低湿地帯を埋め立て開かれた町の一部で、本四町目の南裏にあたることから、裏(裡)四町目と名付けられた。			
裡六町目	本町3丁目15番36号地先	S63.2	福地 養鷲
うらろくちようめ			
S55.1			
藩政初期の寛永二年(一六二五)に低湿地帯を埋め立て開かれた町の一部で、本六町目の南裏にあたることから、裏(裡)六町目と名付けられた。			
江戸町	本町1丁目7番(裡1丁目児童公園内)	S61.3	山内 光雲
えどちょう			
S51.1			
寛永年間に開かれた町で、肴町魚問屋の荷を江戸へ送り出す商人居住の町として、江戸肴町と呼ばれた。宝永(一七〇四)のころからは江戸町となる。			